



2020年11月6日

各位

上場会社名 ラサ工業株式会社
 代表者 代表取締役社長 坂尾 耕作
 (コード番号 4022)
 問合せ先責任者 取締役経理部長 望月 哲夫
 (TEL 03-3258-1835)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2020年5月15日に公表した2021年3月期第2四半期累計期間及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期 第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正 (2020年4月1日～2020年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	15,200	900	850	600	75.70
今回修正予想 (B)	14,260	1,150	1,130	870	109.77
増減額 (B-A)	△940	250	280	270	
増減率 (%)	△6.2	27.8	32.9	45.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	15,184	873	833	607	76.62

2. 2021年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	31,000	1,900	1,800	1,300	164.02
今回修正予想 (B)	29,400	2,100	2,100	1,500	189.26
増減額 (B-A)	△1,600	200	300	200	
増減率 (%)	△5.2	10.5	16.7	15.4	
(ご参考)前期連結実績 (2020年3月期)	29,759	1,871	1,726	1,377	173.82

3. 修正の理由

(1) 2021年3月期第2四半期累計期間の業績予想

第2四半期累計期間の世界経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により景気の停滞は深刻なものとなりました。

このような状況の中、化成品事業においては、一般工業用製品等に新型コロナウイルス感染拡大による影響と思われる比較的大きな売上減少が見られましたが、半導体向け高純度燐酸の売上は順調に推移したほか、販売費の減少を含むコスト低減効果もあり、期初予想に対し増益となる見込みであります。機械事業においては、下水道関連の掘進機は海外向けが、新型コロナウイルス感染症の影響から工事の延期が続き受注が低調となり、予想に対し売上が減少したこと、破碎関連機械がプラント工事の完工時期の延期等があったことに加え、生産減少による工場の稼働率低下などの影響があり、販売費の減少はあったものの期初予想に対して減収減益となる見込みであります。電子材料事業においては、電子部品向けの高純度無機素材の売上が回復基調であったほか、レアメタル商品市況に底打ち感が出てきたことから、期初予想に対して増益となる見込みであります。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う一般管理費の減少もあったことから、2021年3月期第2四半期累計期間の業績予想を上記のように修正いたします。

(2) 2021年3月期通期の業績予想

今後の経済見通しにつきましては、世界経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による景気の落ち込みから着実な回復を見せていましたが、経済活動の活発化に伴う感染再拡大などから強い不透明感が継続しており、依然として厳しい状況が続くと思われます。このため、当社の経営環境は第2四半期累計期間と同様の状況が続くものと考えております。

このような状況の中、化成品事業においては、一般工業用製品等の売上は低迷するものの、半導体向け高純度燐酸は高水準の販売が続くものと見込んでおります。機械事業においては、下水道関連の掘進機の海外向け販売は低調なものになる見込みです。また破碎関連機械はプラント工事の完工時期の延期等の影響から売上はやや減少する見通しです。電子材料事業においては、高純度無機素材の販売は堅調に推移すると見込まれ、レアメタル商品市況も底堅く推移すると思われますが、放射性ヨウ素吸着剤については試験研究費の増額を見込んでおります。

これらの見通し及び第2四半期累計期間の進捗状況を踏まえ、2021年3月期通期の業績予想を上記のように修正いたします。

(注) 本予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後さまざまな要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

以 上